

2019 年度秋学期東京学芸大学「日本理解」「多文化共修科目」時間割・授業概要

2019 年 9 月 30 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50- 10:20					日本理解 F 社会 (加藤拓) [N207]
II 10:30- 12:00					日本理解 D 人文 (千田洋幸) [N306]
III 12:50- 14:20		多文化共修科目 D 世界の民族と文化 (飯田) [N313]			
IV 14:30- 16:00	日本理解 B 教育 (遠座知恵) [N306]				日本理解 H 芸術 (石井健) [書道演習室:芸術ス ポーツ科学系研究棟 4号館2階]
V 16:10- 17:40				多文化共修科目 B 多言語社会とコミュ ニケーション (岡智之) [N313]	

- * 「多文化共修科目」は、学部の正規生（主に日本人学生）が履修できる C A 科目として同時開講されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会の多様性について、学びを深めることを目的としています。
- * 「日本理解」は、留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- * 「日本理解 A・C・E・G」「多文化共修科目 A・C」は春学期に開講されます。

授業科目名	日本理解B：教育
担当教員	遠座知恵 (えんざ ちえ)
ねらいと目標	歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていきます。
内容	古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいきます。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではありません。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく予定です。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を使いながら授業を進めていきたいと思ひます。
テキスト	とくに用いません。
参考文献	必要に応じて読みやすい参考文献を紹介したいと考えています。
成績評価法	コメントペーパー（40%）と学期末試験（60%）で評価を行います。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 古代の教育 3. 中世の教育 4. 文字社会の成立（近世） 6. 近世の教育1（手習いの教育） 7. 近世の教育2（学問の教育） 8. 近代の教育1（近代教育制度の特質） 9. 近代の教育2（西洋近代教育法の受容） 10. 近代の教育3（幼稚園と幼保二元化問題の成立） 11. 近代の教育4（義務教育制度の成立と教育の国家統制） 12. 近代の教育5.（国際新教育運動と大正新教育） 13. 現代の教育1（戦後の教育改革） 14. 現代の教育2（近年の教育改革） 15. 現代の教育3（近年の教育問題と教師の課題）
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	
受講補足（履修制限など）	授業開始時に出席を確認します。
学生へのメッセージ	海外の影響や比較的な視点を交えながら日本の教育をとらえていく授業なので、受講者の皆さんも自国の教育と比べてみてください。

授業科目名	日本理解D：人文
担当教員	千田洋幸 (ちだ ひろゆき)
ねらいと目標	主に 1990 年代以後のアニメを中心とするポップカルチャーを取り上げながら、日本の文化・社会のあり方について考察していきます。
内容	前半は、ここ 20～30 年ほどの定番アニメ作品を取り上げ、その思想的系譜をたどっていきます。後半は、ポップカルチャーについて考える際に欠かせない「オタク」「キャラクター」「腐女子文化」「2.5 次元文化」等について考えます。
テキスト	全て教員の方で用意します。
参考文献	授業時に指示します。
成績評価法	平常点 50% 試験 50%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 1980 年代から 90 年代へ (『美少女戦士セーラームーン』など) 3. 1990 年代アニメについて① (『新世紀エヴァンゲリオン』など) 4. 1990 年代アニメについて② (『少女革命ウテナ』など) 5. 2000 年代アニメについて① (『涼宮ハルヒの憂鬱』など) 6. 2000 年代アニメについて② (『けいおん!』など) 7. 2010 年代アニメの展開 (『魔法少女まどか☆マギカ』など) 8. 「オタク」という社会現象 9. ボーカロイドとキャラクター概念 (初音ミクその他) 10. 美少年の文化 (『テニスの王子様』『ユーリ!!! on ICE』など) 11. 宮崎駿の世界 (『風の谷のナウシカ』『千と千尋の神隠し』など) 12. 災害とポップカルチャー (AKB48、『シン・ゴジラ』『君の名は。』など) 13. アニメの中のアイドル (『ラブライブ!』など) 14. アニメ表現の現在 (『響け！ユーフォニアム』など京アニ作品、新房昭之作品、新海誠作品など) 15. 試験
授業時間外における学習方法	開講前に、『美少女戦士セーラームーン』『新世紀エヴァンゲリオン』『涼宮ハルヒの憂鬱』『魔法少女まどか☆マギカ』『ラブライブ!』等の著名なアニメ作品に多く触れておくと、授業にスムーズに参加できます。
授業のキーワード	
受講補足 (履修制限など)	授業時に出席を確認します。
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解F：社会
担当教員	加藤 拓 (かとう たく)
ねらいと目標	日本人の消費行動を、日本で最近開業した商業施設や日本市場に進出した海外のチェーン企業を例に説明する。
内容	日本で定番化した商品や、最近開業した商業施設、日本市場に進出した海外のチェーン企業に関する話題を紹介し、日本人の消費行動を独自調査の結果も踏まえて解説する。日本人にもものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている施設や企業の例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。
テキスト	とくに定めません。
参考文献	
成績評価法	平常点 50%、発表 50%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一都三県の地理①（鉄道網） 2. 一都三県の地理②（道路網） 3. 一都三県の地理③（商業地、人口分布） 4. 日本の大型商業施設の地域分布（小売ビジネスが成り立つ立地） 5. 日本の外食産業の最近の話題 6. 発表① 7. スーパーマーケットでの販売について 8. 発表② 9. 発表②つづき 10. 日本人の消費行動① 11. 日本人の消費行動② 12. 日本に進出するチェーン企業の現状 13. 日本市場で定着する方法（仮説） 14. 発表③ 15. 発表④（つづき）まとめ
授業時間外における学習方法	街に行くときに買い物場所である商業施設等に意識して立ち寄り、周囲を観察し、フロアガイドを手に入れ、気づいたことをメモすること。
授業のキーワード	日本人の消費行動、商業施設、チェーン企業
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解H：芸術
担当教員	石井 健 (いしいたけし)
ねらいと目標	この授業科目では、書道を中心とした日本の文字文化について考察していきます。本年度は、毛筆の実技をとりまぜながら、書道や文字に関わる歴史や文化について幅広く学んでいきます。
内容	日本語と、母国語や日常生活で使用している言語で用いる文字の歴史や特徴、教育の方法の違いについて知った上で、書の歴史や筆記具の種類や製法について学び、現代日本における「手書き文字」や「筆文字」、「芸術としての書」の意義について考えていきます。また、第12回～第14回の授業では、実際に筆を執り、初歩的な書の作品制作に挑戦します。
テキスト	特に用いません。必要に応じ、資料を配布します。
参考文献	『書の古典と理論』(光村図書出版) 『書の見方 日本の美と心を読む』(角川学芸出版) 『別冊太陽 日本のこころ 191 日本の書 古代から江戸時代まで』(平凡社)
成績評価法	平常点 50% 提出物 30% レポート 20%
授業スケジュール	1 オリエンテーション 2 世界の文字と日本の文字 3 文字と書の教育 4 現代の筆記具と伝統的な書の道具① 5 現代の筆記具と伝統的な書の道具② 6 書の歴史／中国① (書の実技を含む) 7 書の歴史／中国② (書の実技を含む) 8 書の歴史／日本① (書の実技を含む) 9 書の歴史／日本② (書の実技を含む) 10 現代社会における「手書き文字」や「筆文字」の意義 11 現代日本における芸術としての書 12 書の作品を制作してみよう① (書の実技) 13 書の作品を制作してみよう② (書の実技) 14 書の作品を制作してみよう③ (書の実技) 15 まとめ
授業時間外における学習方法	博物館や美術館に展示されている書の作品をできるだけ多く鑑賞するようにしてください。また、日常生活のなかで見かける「手書き文字」や「筆文字」にも注目してみてください。
授業のキーワード	書 書道 文字文化 毛筆
受講補足 (履修制限など)	書の実技を伴う授業ですので、書の道具 (大筆、小筆、固形墨、半紙など) を個人で用意していただく必要があります。詳細は第1回の授業の際に説明します。
学生へのメッセージ	

授業科目名	多文化共修科目 B : 多言語社会とコミュニケーション
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 B「多言語社会とコミュニケーション」では、多言語多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	本授業では、多言語主義、複言語主義のもとで、様々な在日外国人の言語使用や、琉球諸語やアイヌ語、日本手話といった国内での少数言語なども含め、なかなか触れることのできない言語について体験したり、世界各地から来た留学生や様々な地方出身の学生の言葉をお互いに学びあうこともやります。課外活動として、朝鮮学校の授業参観やブラジル人学校の訪問、ヒューマンライブラリーの参加などを考えています。後半は、多言語社会に関する様々な課題をテーマにして、グループごとにプロジェクトを作り、最終発表を行います。
テキスト	特に定めません。
参考文献	有田佳代子他編著『多文化社会で多様性を考えるワークショップ』研究社、2018。その他、適宜、授業時に指示します。
成績評価法	平常点 30% (毎回コメント用紙提出)、個人発表 5%、最終発表 30%、最終レポート 30%、課外活動+感想文提出 5%+ α 、最終レポートは A4 用紙 3 枚程度、締め切りは 2 月 20 日 (木) 担当者にメール添付で送ること。 okatom@u-gakugei.ac.jp
授業スケジュール	1. オリエンテーション、2. 多言語社会って何だろうー多言語主義、複言語主義と言語教育、3. 在日コリアンの言語使用の実態とその背景、移民の言語使用と母語教育、課外活動 11/16 朝鮮学校授業参観、4. 課外活動 11/21 群馬県太田市ブラジル人学校訪問、5. 琉球諸語と琉球文化 (ゲストレクチャー)、6. アイヌ語とアイヌ文化 (ゲストレクチャー)、課外活動 12/8 ヒューマンライブラリー、7. ろう文化と手話 (ゲストレクチャー)、8. 前半振り返りとプロジェクト構想、9~11. 留学生の言語 (日本の方言) を学ぶ (個別発表)、12-14. 最終発表、15. 振り返りと全体まとめ=ワールドカフェ: 多言語社会に向けて
授業時間外における学習方法	課外活動の参加と感想文の提出はセットです。後半のプロジェクト構想と発表に向け、授業外でグループが集まって、調査、準備が必要になります。
授業のキーワード	多言語主義、複言語主義、協働学習、琉球語、アイヌ語、日本手話
受講補足 (履修制限など)	受講者が 30 人を超える場合は、受講制限を行います。留学生は、プレースメントテストで、レベル 1 とレベル 2 の学生のみを対象とします。一部レベル 3 の判定がある留学生は相談してください。
学生へのメッセージ	言語に対する好奇心を湧き立たせてください。日本人学生と交流したい留学生の積極的な参加を求めます。課外活動や国際交流活動にも積極的に参加しましょう。

授業科目名	多文化教修科目 D：世界の民族と文化
担当教員	飯田 茂樹 (いいた しげき)
ねらいと目標	さまざまな国や地域から来た学生が、一緒に演奏したり、調べたり議論したりすることを通して、世界の民族の音楽と文化について多様な視点から考察できる力を身につける。
内容	学期の前半は世界の民族音楽・民族楽器について特徴的な4つのテーマを中心に学びます。 学期の後半は、その学んだ経験を生かしてグループに分かれ、テーマを設定し、多様な民族音楽の世界（音楽・楽器・舞踊など）の議論と発表を行います。
テキスト	特に定めません。
参考文献	特に定めません。
成績評価法	(1) 平常点 50%（毎回の授業の準備とグループワークへの参加状況） (2) レポート 50%（グループで発表した内容に自身の考察を加えてまとめる。）
授業スケジュール	進捗状況に応じて変更します。 1. 10/22 イン트로ダクション 2. 10/29【講義】インドネシア・バリ島の音楽 3. 11/12【グループワーク】インドネシア・バリ島の音楽 4. 11/19【講義】全インドネシアの音楽（バリ島以外） 5. 11/26【グループワーク】全インドネシアの音楽（バリ島以外） 6. 12/3【講義】ブラジルの音楽 7. 12/10【グループワーク】ブラジルの音楽 8. 12/17【講義】世界の鳥笛 9. 12/24【グループワーク】世界の鳥笛 10. 1/7【グループ発表準備】 11. 1/14【実習】手作り楽器・ジャワ島の鳥笛 12. 1/21【グループ発表】1 13. 1/28【グループ発表】2 14. 2/4【グループ発表】3 15. 2/11【グループ発表】4、まとめ
授業時間外における学習方法	いろいろな国や民族の音楽・舞踊を調べる
授業のキーワード	民族、音楽、民族楽器、舞踊、祭り
受講補足（履修制限など）	留学生は、原則として日本語ブレースメントテストでレベル1または2のみ受講を認めます。レベル3の場合は、会話が得意な人は受講できることもありますので相談して下さい。
学生へのメッセージ	この授業では、自由に意見交換してください。事前の知識は無くても、世界の民族と音楽と文化に興味がある人は積極的に参加してください。 実習の手づくり楽器「ジャワ島の鳥笛」では材料費実費 550 円がかかります。